

2019 年 4 月 1 日 ~ 2021 年 3 月 31 日の間に 当院において小腸または大腸の手術を受けられた方、 および同期間に病理解剖（剖検）が行われた方のご家族の方へ

— 「腸管壁の弾性板走行に関する組織学的検討」へのご協力のお願い—

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者 川崎医科大学病理学 教授 森谷卓也

研究分担者 川崎医療福祉大学 臨床検査学科 学生 近藤 李咲

川崎医療福祉大学 臨床検査学科 学生 高山 和樹

1. 研究の概要

さまざま病気で手術が行われた場合、摘出された臓器・組織の顕微鏡標本を作って病理検査が行われます。小腸や大腸は、壁の構造の乱れについて観察しますが、もともと壁の中に存在している弾性線維（弾性板）のひずみや断裂の様子が診断に役立つ可能性があります。そこで、手術標本内（あるいは病理解剖で取り出された臓器）の、病変以外の部位から新たに標本を作製し、もともとの弾性線維がどのように走行・分布しているかを観察することが本研究の目的です。得られた結果が、将来、様々な病気の腸管における弾性板の乱れの様子を明らかにするとともに、その意義を解明するための基礎データとなることが期待されます。なお、本研究は川崎医療福祉大学臨床検査学科の卒業研究として実施されます。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2019 年 4 月 1 日 ~ 2021 年 3 月 31 日の間に川崎医科大学附属病院消化器外科において小腸または大腸の手術を受けられた方、および同期間に病理解剖が行われた方を研究対象とします。

2) 研究期間

倫理委員会承認日 ~ 2022 年 3 月 31 日

3) 研究方法

2019 年 4 月 1 日 ~ 2021 年 3 月 31 日の間に当院において小腸又は大腸の摘出手術を受けられた方で、研究者が診療情報をもとに年齢・性別などのデータを選び、組織標本に関する新たな分析を行い、弾性板の走行の様子について調べます。また、同時期において実施された病理解剖例で、ご遺族が医学的研究への協力を承諾して下さった方も対象とします。

4) 使用する試料・情報の種類

情報：年齢、性別、腸管の部位、等

試料：手術で摘出した組織、病理解剖で摘出した組織、等

5) 試料・情報の保存

この研究に使用した試料・情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、川崎医科大学病理学内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の試料・情報は施錠可能な保管庫に保存します。

7) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についてわかりにくく点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの試料・情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2021年12月31日までの間に、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

川崎医科大学 病理学

氏名：森谷卓也

電話：086-462-1111 内線 44514（平日：9時00分～17時00分）

ファックス：086-462-1111

E-mail：tmoriya@med.kawasaki-m.ac.jp

3. 資金と利益相反

この研究は、学内研究費を用いて行われる予定です。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。